

地域の魅力を高める歴史的資産の使い方を創造する

30 歴史的資産の活用に向けて地域の魅力を調べる

北関東の伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）は東日本大震災により大きな被害を被っており、中でも茨城県桜川市真壁地区は被害が甚大であった。震災復旧工事が推し進められているものの、職人不足の問題が一因し、復興にはもう少し時間がかかるであろう。しかし、震災復旧工事を終えても活用されることなく空き家になっている建物も多く、地域の持続と活性化を考えると職人不足よりも大きな課題と言える。したがって、被災建物を復旧する体制と内部の活用体制を平時より整えておくことが、伝建地区の回復力を高めるために必要である。つまり、平時に伝統的建造物群を単に保存するのではなく、有効活用することによりその価値を高め、より魅力的なものにすることが、地域の活力と回復力を一層高めることに寄与すると考える。しかしながら、高齢の居住者が亡くなり、遠方に住む親族が歴史的建造物を相続したものの、その維持管理や処分に困り自治体への寄贈を希望するケースも少なくなく、民間による活用が促進される地域づくりが望まれる。

そこで、栃木市嘉右衛門町地区および栃木町地区、さらに桜川市真壁地区に対して、既往調査結果¹⁾²⁾³⁾を踏まえ、歴史的建造物の現況を中心とした空間構成要素、ならびに景観阻害要素の分布状況を現地調査によって把握し、そこから魅力空間の発掘を目指す。具体的には、建造物の現状を把握するとともに、既往調査で対象としていない細かな景観要素の分類による町並みを構成するもの、阻害するものの実態を把握し、歴史的町並み形成課題について明らかにすることにした。ここで、歴史的建造物を含む町並みを構成しているものを『景観構成要素』、街路の見通しと町並みの連続性を崩すものを『景観阻害要素』、それらの総称を『歴史的環境資源』と定義する。歴史的建造物に関しては、伝建地区（予定地区も含む）とそのバッファエリアの歴史的資源を調査対象とし、歴史的環境資源の実態把握及びその評価から、今後の当該地区の特色を活かし、地域の活性化に資する知見を得ることを目的とする。

まずは、表1のような調査対象地区の概要を把握し、町並みの生い立ちを知ることから着手した。

栃木市嘉右衛門町地区は、栃木市の中心部、岡田嘉右衛門によって開発されたとされる嘉右衛門新田村を起源とする。貞享2年（1685年）から畠山氏の領地として陣屋が設けられ、後の岡田嘉右衛門邸となった。また、同地区は旧例幣使街道に沿って形成され、古くからの敷地割りや伝統的建造物、並びに在郷町としての歴史的風致を維持しているとし、平成24年7月9日、重要伝統的建造物群保存地区に選定された。保存地区の西には巴波川が南北に流れ、川に平行し湾曲に整備された旧例幣使街道沿いでは、古くからの敷地割りを良く残し、翁島や岡田記念館の緑等と共に、歴史的町並みをつくり上げている。

表1 調査対象地区の概要

	栃木市		桜川市
	嘉右衛門町地区 在郷町 (重要伝建地区)	栃木町地区 宿場町 (伝建地区指定予定)	真壁地区 在郷町 (重要伝建地区)
所在地	栃木県栃木市泉町、嘉右衛門町、小平町、錦町及び昭和町の一部	栃木県栃木市倭町、万町、入船町及び旭町の一部	茨城県桜川市真壁町真壁字下宿町、字高上町、字大和町の全域並びに字上宿町及び字仲町の各一部
面積	9.6ha	15.7ha	17.6ha
選定年月日	平成24年7月9日	—	平成22年6月29日
用途地域 (建蔽率／容積率)	第一種住居地域(60／200)	第一種住居地域(60/200) 近隣商業地域(80/200) 商業地域(80/400)	第一種住居地域(60/200) 近隣商業地域(80/200) 商業地域(80/400)

栃木町地区は、栃木町地区の南北に旧日光例幣使街道である大通り(以下、大通り)と巴波川が並行している。江戸時代初期から日光例幣使街道の主要な宿場町として、併せて、巴波川舟運の溯航終点に位置する河岸の町として栄えた。このことは、築造当時の原型をほぼ保って漕渠と呼ばれる長さ 120mの堀で巴波川と繋がっている県庁堀や綱手道からもみることができる。また、大通りは昔から幅員が十間あり、基本的に明治末期の町割りも現存している。栃木町地区は、現段階では伝統的建造物群保存地区に指定されていないが、様々な歴史的建造物や地区外にある栃木病院をはじめとする洋風建築もある。栃木の蔵造りは、その数の多さと、他の地区に現存する蔵造りと比べ、幕末から明治、大正期までの長い期間に渡り建てられている点に特徴がある。これは、幕末に起きた4度の火災をきっかけに普及した為である。

桜川市真壁地区は、桜川市域南部に位置し、中世の城下町を起源とする。江戸期になり真壁藩として陣屋がおかれ、城下町から在郷町として発展したが、現在においても変わらない街路や街区の形を残している。その後の建造物の変遷や震災の影響により、建造物の倒壊や消失、外観破損など現況が当時と異なっている。主要産業は農業であり、代表的な産業として、明治初期頃から加波山の麓一帯で真壁小目と呼ばれる御影石が採掘されており、この御影石を利用した石材業が盛んであったが、近年は衰退の一途をたどっている。

以上の調査対象地区の町並みの生い立ちを知ったうえで、現地調査では表2に示すように地区内及び周辺に現存する歴史的建造物と工作物である門及び塀等の歴史的環境資源、加えて、歴史的環境資源以外の空き家・空き地等の景観構成・阻害要素を街路からの目視により把握した。景観要素の選定には、既往調査¹⁾²⁾³⁾および各市の修理・修景・許可基準・修景ガイドラインなど⁴⁾⁵⁾⁶⁾を参照しながら整理した。調査方法や評価基準、超結果等については、次項で紹介する。

表2 建造物およびその他の景観要素調査項目

項目	内訳				
建造物分類	建造物	店舗	木造、塗屋造		
		住居	木造、土造		
		蔵	土蔵、石蔵、見世蔵		
		その他	納屋、店舗・住居、洋風建築、寺院、小学校の旧校舎、工場		
		空き家			
	工作物	門	薬医門、長屋門、高麗門、腕木門		
		町並みを構成する塀	瓦のせ塀、板塀、塗り塀、石柵、石塀、生垣、竹垣		
		町並みを阻害する塀	レンガ、トタン、フェンス、柵、ブロック塀、大きな破損塀		
		その他	煙突		
建造物の外観評価	景観要素	修景してあるもの			
		阻害しているもの	看板建築・素材		
	建造物保存状態	外壁・塀	仕上げ材の剥落腐朽や破損	良好/部分破損/大きな破損の3段階評価	
		屋根	葺き材の剥落・腐朽	良好/部分破損/大きな破損の3段階評価	
		開口部	窓・扉の破損		
その他の景観要素分類	景観構成要素	樹木	広葉樹、針葉樹(中木、高木)		
		サイン	石質サイン、木質サイン		
		行事用具	花行灯、花飾用竹筒		
		その他	祠、鳥居、石碑、ベンチ、モニュメント		
		歴史的な道、暗渠、水系			
	景観阻害要素	サイン	阻害看板(建築)、袖看板、置き看板、不調和看板、政党ポスター、駐車場サイン、サインポール		
		その他	自動販売機、ゴミ箱、ゴミ捨て場、その他(変圧器、瓦礫)		
		空き地、駐車場			

参考文献

- 1) 茨城県桜川市教育委員会:真壁の町並み 伝統的建造物群保存対策調査報告書、2006年3月
- 2) 栃木市:栃木の町並み 蔵造りに関する調査報告書、1987年3月
- 3) 栃木市教育委員会:栃木の町並みⅡ 旧日光例幣使街道沿線の歴史的建造物調査報告書、2002年3月
- 4) 栃木市教育委員会:栃木市嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区保存計画、平成24年栃木市告示第75号
- 5) 栃木市:栃木市 町並み修景ガイドライン
- 6) 国土交通省:国土交通省令第70号 住宅地区改良法 施工令第一項 別表「住宅の不良度の測定基準」、最終改正2004年6月18日